


## 再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：下保 修

事業名 <small>ひだか</small> 日高自動車道 <small>もんべつあつが</small> 一般国道235号 門別厚賀道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局
起終点 自：北海道 <small>さる</small> 沙流郡 <small>ひだか</small> 日高町字 <small>ひらが</small> 平賀 至：北海道 <small>さる</small> 沙流郡 <small>ひだか</small> 日高町字 <small>みはら</small> 美原	延長	20.0 km
事業概要 日高自動車道は、北海道縦貫自動車道苫小牧東ICから分岐し、浦河に至る延長約120kmの一般国道の自動車専用道路である。このうち門別厚賀道路は、日高富川ICから（仮）厚賀ICに至る延長20.0kmの区間であり、国土・地域ネットワークの構築により、苫小牧港や新千歳空港へのアクセスを強化して、物流効率化や円滑なモビリティの確保に寄与する道路である。		
H5年度事業化 H一年度都市計画決定 H10年度用地着手 H13年度工事着手		
全体事業費 950億円 事業進捗率 14% 供用済延長 0km （暫定2車線）（771億円）（暫定2車線）（29%）		
計画交通量 14,000～18,400台/日		
費用対効果分析結果 B/C (事業全体) 1.8 (残事業) 2.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 638/863億円 (事業費：590/815億円) (維持管理費：48/48億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,583/1,583億円 (走行時間短縮便益：1,438/1,438億円) (走行費用減少便益：97/97億円) (交通事故減少便益：48/48億円)
基準年 平成19年		
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.6（交通量+10%） B/C=2.3（交通量-10%） 事業費変動：B/C=2.3（事業費+10%） B/C=2.7（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=2.5（事業期間+20%） B/C=2.7（事業期間-20%）		
事業の効果等 ・国土・地域のネットワークの構築（新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成） ・安全で安心できる暮らしの確保（三次医療施設へのアクセス向上） ・物流効率化の支援（大都市圏への農林水産品の流通の利便性向上） <span style="float: right;">他7項目に該当</span>		
関係する地方公共団体等の意見 災害に強い交通ネットワークの形成、高次医療施設へのアクセス向上、農水産物等の物流効率化、軽種馬生産や観光の発展に寄与するとして、浦河町をはじめとする1市11町の首長で構成される高規格幹線道路日高自動車道早期建設促進期成会等より、早期整備の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成10年度に北海道縦貫自動車道に接続して、日高自動車道苫小牧東IC～厚賀ICが供用開始。 ・平成15年度に日高自動車道厚賀IC～鷗川IC間が供用開始。 ・平成17年度に日高自動車道鷗川IC～日高富川IC間が供用開始。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成13年度より工事着手して、用地進捗率36%、事業進捗率14%となっている。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 引き続き事業が順調に進んだ場合、平成20年代中頃の暫定2車供用を予定している。		
施設の構造や工法の変更等 縦断線形の見直しや現地発生材（伐根物、すき取り物）の有効活用によりコストの縮減を図っている。		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図  <p style="text-align: center;">門別厚賀道路 L=20.0km</p> <p style="text-align: center;">凡例                  ■ 供用中                  ▨ 再評価区間                  ▩ うち供用中</p>		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。